令和５年度　山代西小学校

校内研究の全体計画

（１）研究主題名

「主体的・協働的に学ぶ児童の育成」

～学び合い活動を充実させる算数科指導の工夫を通して～

（２）研究主題設定の理由

○　主題設定の理由

学習指導要領には、急速に変化していく社会の中で、一人一人の児童が自分のよさや可能性を認識し、多様な人々と協働しながら、豊かな人生を切り開き、持続可能な社会の創り手となる児童を育てる学校教育の実現が求められている。算数科学習においては、児童が数学的活動を通して主体的・対話的に問題解決に取り組み、新しい概念を形成したりよりよい方法を見出したりするような深い学びになるよう、授業改善のより一層の推進が求められている。そうした状況を踏まえ、日々の学習指導で、児童自身がこれまでの学びや経験をもとに見通しを立て、自分の考えをもち、互いの考えを交流しながら問題解決に向けて粘り強く取り組むという経験を積み重ねていける場を用意することが必要と考える。

今年度は算数科を研究の中心に据えて３年目になる。これまで、「山代メソッド」を軸にした授業展開に全校統一して取り組んできたことで、多くの児童が授業の流れを見通して学習することができている。しかし、昨年度末に行った算数アンケートで、「一人でタイムで自分の力で問題を解こうとしているか」という質問に肯定的な回答をした児童の割合が 88%だったことに対し、「みんなでタイムで自分の考えを発表することが好きか」という質問に肯定的な回答をした児童の割合は 56%という結果が出た。また、令和４年度の県学習状況調査結果を見ると、県平均に対し、５年生の平均正答率は１．２４と上回ったものの、４年生は０．７７、６年生は０．８１と下回った。特に、前年度と同様に、長文問題から必要な情報を選択しながら解答していく問題や、問題解決の方法や判断した理由を説明したりする問題等ができていない。問題場面を想像し、整理しながらしっかり思考すること、また思考の結果を表現することに課題があることがわかる。これらの結果から、前年度に引き続き、考えを友達に伝えることに対する児童の意識改革、そして発達段階に応じた思考力・表現力を高めていける場づくりが必要であると考える。また、そうした学び合いを実現するための下地である基礎学力が十分に身に付いていない点も本校の実態であり、基礎・基本的な知識の習熟も重要な課題である。

そこで、今年度は、これまでの研究で得た成果を生かしつつ、算数科学習指導における学び合い活動を更に充実させることを念頭に置いて研究を進めていく。全校児童３２人という本校の実態を考え、学び合いの形を柔軟に捉えつつも、児童が自分の考えを図や表、グラフ等を使い分けながら筋道を立てて表現し、交流を通して考えを練り上げていくことの楽しさを感じながら学び合えるような場づくりを工夫していきたい。また、自分の考えをもつ時間（１人でタイム）を充実したものにするために課題提示の方法や見通しの持たせ方、支援の方法などの手立てについても研究を深めていく。さらに、充実した学び合いの下地となる基礎基本の学力・既習事項の定着については、「算数タイム」や山西プリントといった活動に加え、タブレットやＩＣＴ教材も上手く活用しながら習熟を図っていきたい。こうした活動を積み重ねていくことで、主体的・協働的に学ぶ児童の育成を図りたいと考え、本研究主題を設定した。

（３）研究目標

友達と意見を交わしながら課題を解決していくことの楽しさを実感し、互いを認め合いながら主体的・協働的に学んでいく児童の育成を図る。そのために学び合い活動の更なる充実と基礎基本の学力の定着を図る。

（４）研究主題の考え方

ア　「主体的に学ぶ姿」とは

・問題解決に向けて見通しをもち、粘り強く取り組み、問題解決の過程を振り返り、よりよく解決したり、新たな問いを見いだしたりする姿

イ　「協働的に学ぶ姿」とは

・異なる考えを尊重し合い、話し合いの中で自分と友達の考えを比較しながらより良い考えを求めていく姿

ウ　「学び合い活動を充実させる」とは

・児童１人１人の「考えをもつ力」「伝える力」「聞く力」「考えをつなぐ力」を育て、より活発に学び合いを行うこと

考えをもつ力→基礎・既習事項を活用する力

伝える力→思考を整理し、説明する力（自分は何が分かって、どこが分からないのか、どのような手順で解いたのか等）

聞く力→他者の考えと自分の考えを比較する力、質問する力

考えをつなぐ力→自分や他者の考えをもとに、新たな見方や考えを生み出す力

（５）研究の仮説

指導過程の中で、次のような手立てをとれば、主体的・協働的に学ぶ児童の育成につながるであろう。

ア　１単位時間の基本的学習過程「山代メソッド」（**つかむ、見通す、考える、考え合う、整理する、振り返る**）を組み、児童相互が考えを交流できる場を充実させる。また、学習を定着させる場（「すっきりタイム)）を位置づけて指導にあたる。

イ　自分の学習状況を把握・点検させ、次の活動を調整できる力を高める振り返り活動を図る。

ウ「算数タイム、スピーチタイム」に取り組む時間として「佐代川タイム」を位置づけ、学び合い活動の充実に有効な基礎・基本的能力（計算力・話す力・聞く力）を高める。

エ　ICT 教材やタブレット端末を活用して思考する場面を積極的に取り入れ、情報活用能力を高める。

オ　「生活計画表」・「家庭学習シート」に継続して取り組み、学習内容や学習習慣の定着を図る。

（６）研究の内容と方法

ア　１単位時間の基本的な学習の流れ「山代メソッド」（つかむ、見通す、考える、考え合う、整理する、振り返る）を実践しながら、各学年の実態に合った学力育成のための手立てを探る。

・学習用語（「つなぐ言葉」、算数用語等）の活用法を周知し、学び合いにおいて積極的に使用させる。
・考えを整理したり表現したりするための手段（言葉、式、絵や図、表やグラフなど）を知り、それらを適切に用いて自分の考えを相手に伝えることの習慣化を図る。また、各学年に応じた学び合いの方法について追求を重ね、学び合い活動の充実を図る。
・授業以外の場面でも自分の考えを文章や言葉で表現することに慣れさせるための工夫を追求する。
・全研究員参加の模擬授業・研究授業を行い、研究内容を検証するとともに、研究授業では講師を招いて指導を受ける。
・全校統一した「見やすくて分かりやすいノート」を作り、全学級で共通した指導を行う。
・年２回、アンケートを実施し、児童の実態調査・学力検査の結果の比較を行う。
・算数コーナーを設置し、算数クイズや参考になる児童のノートをコピーして掲示する。

イ　自己の学びの客観視や生活場面につながる振り返り活動の具現化

・学習用語やキーワードを使ってまとめることに慣れさせる。
・ただの感想ではなく、自己の学びの客観視につながる工夫を追求する。（「ふりかえりの視点」、モデルの提示等を行う。）
・学びを他の教科や生活場面につなげようという視点を持つための工夫を追求する。

ウ　佐代川タイムの充実

・週に２回（月・水曜日）「スピーチタイム」を設定し、指導法を全職員が共通理解し、聞く力や話す力を意識した指導を行う。
・「スピーチタイム」で培った聞く力や話す力を、算数における学び合いにつなげられるように、指導の工夫を追求する。
・週に１回（金曜日）「算数タイム」を設定し、児童の実態に沿って単元や領域を選定し、既習事項の定着や基礎的な計算力の向上を目指す。
・各学級で「算数タイム」の平均点を月ごとに掲示していき、年間の推移を可視化することで、意欲の向上をはかる。

エ　ICT 教材やタブレット端末を活用して思考する場面を積極的に取り入れ、情報活用能力を高める。

・学習過程において日常的にタブレット端末を使用し、その効果的な活用方法を追求する。（算数に限らず、全教科で積極的に活用する。）
・授業外の時間でも使える算数のデジタルコンテンツを提示し、積極的に活用させることで、タブレットを扱う技術の向上や既習内容の習熟を図る。
・算数科における Teams や Forms の効果的な活用法を模索し、実践を重ねる。

オ　家庭学習の工夫を行い、学習内容の定着を図る。

・「生活計画表」や「家庭学習シート」で、家庭学習における調整力（時間・内容）をつける。
・自主学習で取り組める内容や方法について書いた手引き書を作り、自主学習の推進を図る。
・学習ルールについて書いた「学びのスタイル」を各教室に掲示し、学習に向かう心構えや集中力を身に付ける。

（７）研究組織

ア　組織の構成

校長 ― 研究推進委員会 ― 全体会

＜グループ学年部会＞

部　会	分　担
下学年部会	
上学年部会	

＜専門部会＞（○は各部のリーダー）

部　会	分　担
研究部	
スキル部	
地域家庭部	

イ　組織の役割

研究推進委員会
・研究計画立案 ・研究全般についての企画・運営 ・講師招聘検討　等

全体会
・研究全般についての研究討議 ・授業実践における研究会 ・講師招聘における研究会　等

グループ学年部会	
・指導案作成、資料の保管 ・授業研究会の計画、役割分担	・授業実践における教材研究 ・授業の分析、考察、まとめ

専門部会	
研究部	・授業モデルの提案（児童の実態に沿った実践の探究） ・学び合い活動、振り返り活動に関わる掲示物の検討 ・校内環境の整備
スキル部	・「佐代川タイム」（スピーチタイム・算数タイム）の計画、準備、推進 ・研究内容に関連した児童の実態調査、分析
地域家庭部	・家庭学習の工夫（習慣化・山西プリントなど） ・自主学習の推進（自主学習の手引きの作成など） ・地域、家庭との連携推進（家庭学習シート、生活記録表、山代っ子ウィークの活用など）

２　年間計画

１学期

４	１９	第１回　研究推進委員会	本年度研究の原案についての検討・協議
４	２６	第１回　全体研	全体計画についての提案・協議 授業研について（授業者・時期）
５	１７	第２回　専門部会	授業者・時期の決定 活動内容の検討・計画
５	３１	第３回　全体会	専門部の取り組みの共通理解
６	１４	第４回　学年グループ研	めざす児童の姿について・指導案検討
６	２８	第５回　全体会	研究授業の模擬授業
７		第６回　全体会（授業研①） 年	授業研究会・講師招聘

夏季休業

		（専門部会）	１学期反省・２学期の取り組みについて
８	１８	第２回　研究推進委員会	２学期の取り組みについて

２学期

９	６	第８回　全体会	各専門部より２学期に向けた提案
９	１３	第９回　専門部会	各専門部の活動
９	２７	第１０回　学年グループ研	教材研究・指導案作成
１０	２５	第１１回　全体会	研究授業の模擬授業
１１	１	第１２回　全体会（授業研究②） 年	授業研究会・講師招聘
１２	１３	第１３回　全体会・専門部会	研究のまとめについて ３学期に向けた活動
		「年間反省アンケート」・「研究授業の考察」提出締切	

３学期

１	１０	第１４回　全体会	各専門部より３学期に向けた提案
１	３１	第１５回　全体研・学年Ｇ研	各学年Ｇの研究成果と課題のまとめ
２	７	第１６回　専門部会	各専門部の研究成果と課題のまとめ
２		「研究のまとめ」（各学年Ｇ・専門部の成果と課題）原稿提出締切	
２		「研究のまとめ」完成・配布	
		第３回　研究推進委員会	年間反省と次年度の方向性
３	６	第１７回　全体会	年間反省と次年度の方向性協議、決定